

河川基金助成事業

梅田川の魅力を探ろう ～生き物・
人・つながり～

助成番号：2023 - 7211 - 018

神奈川県 横浜市 三保小学校

校長 鈴木 康史

2023 年度

助成番号	助成事業名	学校名			
2023-7211-018	梅田川の魅力を探ろう ～生き物・人・つながり～	横浜市立三保小学校			
所在地	横浜市緑区三保町 1867 番地	対象河川名	梅田川		
対象学年	3 学年 (142 人)	主たる教科	総合的な学習の時間・理科		
河川教育の目標	梅田川に生息する水生生物を観察することで、 <u>生き物への愛着と生命に対する畏敬の念</u> を持つと共に、自分たちの住むまちに広がる豊かな自然環境の大切さに気付かせる。その上で、自然環境や様々な生物を保全していくことは、そこに住む <u>自分たちの責任</u> であると感じ、それを実行・実現していくためにできることを考える。				
育成したい資質・能力	・梅田川に数多くの生物が生息していることを知り絶滅危惧種の保全や外来種に関する知識を得る。 ・自然環境を守るために日々取り組んでいる方々の力があって、この環境が守られていることに気付く。 ・自然環境を守るために、自分たちが責任をもって取り組んでいくことの必要性を感じると共に、今できることについて考え実行する。				
学習活動の内容と成果					
主な学習活動 ○環境科学研究所・横浜市道路局河川企画課の協力のもと、「梅田川 水辺の楽校」にて梅田川の生き物調査を行った。 ・川に入り、網で数多くの生き物を採集し、環境科学研究所・河川企画課職員の指導の下、水槽に分類し観察した。 ・絶滅危惧種や、外来生物についての説明を聞き、慣れ親しんでいるアメリカザリガニやミドリガメが外来生物であることを知り驚くと共に、絶滅危惧種を救いたいという思いを持つ。 ○学校図書館やタブレット端末で、生き物調査で見つけた生き物についての情報を集めた。 ・絶滅危惧種や外来生物の問題は、梅田川だけの問題ではないことを知る。 ・人間が引き起こした問題であると共に、すぐに簡単に解決できる問題ではないことに気付く。 ・放置しておけば、事態が悪化することを予想し、できることはないかと考えた。 ○まず、身近な梅田川の自然環境を守る活動を検討した。 ・梅田川にたくさんの生き物が生息していることを、たくさんの人に知ってもらい、大切にしようと感じてもらうことが大切であると考えた。 ○梅田川にある「めだか広場」のジオラマと、梅田川に生息する生き物の模型を作り、説明書きと共に校内に展示し、自分たちの思いを伝える学習活動を行った。 成果 ○生き物の個々の生態について詳しく知ること、それらに対する愛着を深めていく姿が見られた。 ○川での体験が、自然環境と自分たちの生活がつながっていることを実感させていた。 ○生き物や自然環境保全の大切さを他者に伝えようとする活動に取り組むことで、日々の自分たちの行動に責任をもつことの大切さを感じていた。					
学びの創意工夫点	・専門家（環境科学研究所）による指導で、新たな気付きをもたせた。（絶滅危惧種・外来生物） ・梅田川での実体験を土台として、生きた学びとなるように取り組んだ。				
河川教育を通じて見られた子どもの変容	「水が流れているところ」「ザリガニが取れるところ」程度の認識であった梅田川に対して、「たくさんの生き物が生きている大切な場所」という認識を持つと共に、それ以外の河川や森林等に対しても、その保全の大切さを感じるようになっていく。				
支援者等（複数記入可）					
保護者	外部小学校	行政機関	専門家		
支援の概要					
・河川での活動の安全管理及び生物捕獲の指導と、水生生物に関する学習指導					
成果発表	成果作品	発表方法			
	・梅田川（めだか広場）のジオラマ ・水生生物の模型	・校内での展示			
今後の課題・展開					
河川環境を守るという活動について、より自分事として取り組めるよう、学校での学習活動以外の場でも、子どもだけでも安全に取り組めることを探っていきたいと考える。子どもたちに対しては、自分たちのまちの自然環境を守る取り組みを、より具体的に考え実行していくことを望むと共に、将来的に <u>まちを支える一員として、責任ある行動</u> をとり続けていってほしいと考える。					

・キーワードとなる言葉にアンダーラインを引いて下さい。

助成番号	助成事業名	学校名
2023-7211-018	梅田川の魅力を探ろう ～生き物・人・つながり～	横浜市立 三保小学校



学習活動名：理科：梅田川水辺の楽校生き物調査

日 付：令和5年9月26日（火）

見られた子どもの姿：

・梅田川にて生き物を採集し、専門家の指導の下、分類し観察した。川と生き物に直接触れたことと、専門家からの指導で、今後の学習活動についての新たな気づきを得た。



学習活動名：総合的な学習の時間

日 付：令和5年10月26日（木）

見られた子どもの姿：

・梅田川に生息する生き物の模型とジオラマを校内に展示し、自然環境と生き物を守ることの大切さを伝えようと取り組みを始める。模型を作り始めるが、実際の大きさや体のつくり、色等を表現することの難しさを解決するために、材料の選別や作り方について検討し試行錯誤する。



学習活動名：総合的な学習の時間

日 付：令和6年2月26日（水）

見られた子どもの姿：

・生き物の模型とジオラマについて、材料や作り方を自分たちなりに工夫して作り上げる。このジオラマと模型を展示する意図が伝わるように、説明書きを作り、あわせて展示することにする。

河川教育計画書【単学年】

1.助成事業名		学校名			助成番号																						
2.河川教育の目標		身近な河川である梅田川に対する関心を高め、大切にしようとする心情を醸成するとともに、身近な自然や環境に進んで関わり、梅田川に関わる方（梅田川愛護会など）に心を寄せ、その思いを理解、共感し、仲間と協力して、自分たちにできることを考え、問題解決に取り組もうとする。																									
3.育成したい資質・能力		○地域には、梅田川や新治市民の森、田畑など様々な魅力や特徴があることに気付くとともに、梅田川に関わる方々は、思いや願いをもって環境保全を実現しようとして行動していることが分かる。（知識及び技能） ○梅田川の生き物調査などの体験活動や梅田川に関わる方々からの取材から、目的に合った情報を得たり、自分たちの思いや考えをまとめ、適切な方法（パンフレット、マップ、図鑑など）で相手に伝える。（思考力、判断力、表現力等） ○身近な自然や環境に進んで関わり、梅田川に関わる方（梅田川愛護会など）に心をよせ、その思いを理解し、共感し、仲間と協力して、自分たちにできることを考え、問題解決に取り組もうとする。（学びに向かう力、人間性）																									
4.学年／人数		第3学年／128人																									
5.単元構想																											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3															
単元目標	単元名：伝えよう 三保のまちのみ力 「梅田川の生き物・人・こんなつながり」																										
	○町しらべを通して、三保の地域には、梅田川や新治市民の森、田畑な そ様な魅力や課題を発見し、課題を解決するための方法や手段を考え ることができる。			◎身近な自然や環境に進んで関わり、梅田川の生き物調査などの体験 活動や、梅田川に関わる方々の取材から、目的に合った情報を得たり、 梅田川に関わる方（梅田川愛護会など）に心を寄せ、その思いを理解、 共感したりして、仲間と協力し自分たちにできることを考え、問題解決に 取り組むことができる。			◎梅田川の生き物調査などの体験活動や、梅田川に関わる方々の取材から、 目的に合った情報を得たり、梅田川に関わる方（梅田川愛護会など）に心を寄 せ、その思いを理解したりして、仲間と協力して、自分たちの思いや考えをま とめ、適切な方法（パンフレット、マップ、図鑑など）で相手に伝えることがで きる。																				
	関連教科：総合的な学習の時間 社会		20時間	関連教科：総合的な学習の時間		30時間	関連教科：総合的な学習の時間 国語		30時間																		
主な学習活動	○三保のまちについて 知っていたことや、行っ たことがある場所、連 想することの話し合い、 ウェビングマップ作成 ○方面別のまち調べ 計画			○方面別町しらべ ○各方面別のマップ作 り ○各方面別の特徴を 整理			○一人ひとりオリジナ ルの三保のまちマップ 完成 ○現段階で、まち調べ を通して自分が新しく 知ったことなど、ウェビ ングマップに付け加え をする。			○夏休みの課題 まち調べ（自分が興味 をもった内容につい て） ○課題別学習開始 ○梅田川についてもっ と知りたいこと、やって みたいことなど活動計 画を立てる。 ○実際に、梅田川や 一本橋メダカひろばに 行き、身近な自然や 環境と関わる。			◎梅田川愛護会の方 による講和 ◎過去の調査分析 ◎外来種について ◎愛護会、河川事務所、 科学技術研究所の 方々と一緒に、メダカ ひろばにすむ生き物の 採集と観察 ◎愛護会、河川事務所、 科学技術研究所の 方々と一緒に、遊水池 調査（休日希望者参 加）			◎今回の調査分析 ◎梅田川を楽しむ会 の方への質問、活動内容 や思いを知る ◎問題解決のために、 自分たちができること を考え、パンフレットや 図鑑づくり			◎国語「伝えよう 三 保のまちじまん」準備 （課題別チームごとに 自分たちがやってき たことを整理し報告 会） ◎パンフレット、図鑑 づくり ◎愛護会の方々に マップを見てもらいア ドバイスをもらい改 善			◎各クラスでチームご とに報告会 （別チームへ報告・参 観日に保護者へ報告） ◎三保小低学年を中 心に梅田川の魅力や、 これから大切にしてい きたいことなどをパンフ レットや図鑑で発信					
	評価の観点	○身近な三保のまちについて 関心を高め、自分たちが知っ ていることを整理したり、今後 の学習の見通しをもつために 計画を立てたりしようとしてい る。			○まち調べを通して、目的に 合った情報を得たり、方面別 の傾向を捉えたりして、三保 の地域には、様々な魅力や特 徴があることに気付いている。 ◎西コースには、自然が多く、 梅田川やメダカひろばなど川 があるという特徴に気付いて いる。			○三保の特徴について、4方 面と比較したり、自分の思い や考えをまとめ、オリジナル マップに整理し、分析したりし ている。			◎身近な河川である梅田川に ついて関心を高め、実際に川 に行き、多様な生き物がある ことや、愛護会など川に関 わっている方々がいることに 気付いたりしている。			◎身近な自然や環境に進んで 関わり、梅田川の生き物調査 などの体験活動や、梅田川に 関わる方々の取材から、目的 に合った情報を得たり、必要 な情報を比較、関連、分類す るなどして、情報を整理、分析 したりしている。			◎梅田川に関わる方々の思 いを理解し、共感したりする とともに、梅田川の環境を大切 にしようとしている。また、情報 を整理し、分析したりしたこ とから自分たちの思いや考えを まとめ、問題解決に取り組ん でいる。			◎仲間と協力して、自分た ちの思いや考えをまとめ、適切 な方法で伝えようとしている。			◎仲間と協力して、自分た ちの思いや考えを効果的に発信 するとともに、身近な自然を大 切にしようとして環境改善、創造に 努めようとしている。				

河川教育 学習活動報告書【単学年】

1.助成事業名		梅田川の魅力を探ろう～生き物・人・つながり～			学校名		横浜市立三保小学校			助成番号		2023-7211-018		
2.実際に行った単元構成 注)活動の様子を記述し、写真を添付してください。														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
学 習 活 動 の 結 果	大すき 三保のまち 社会科の「まち調べ」を通して、三保の地域には自然が多く残っており、なかでも「一本橋メダカひろば」には、ホタルが生息していることを知ることで、他にはどんな生き物がいるのか興味をもち課題を発見することができた。 関連教科：;総合学習10時間、社会10時間 三保のまちについて知っていたことや、行ったことがある場所について話し合い方面別にまち調べの計画を立てた。クラスで話し合うことで知っているようで知らなかった三保のまちへの関心を高めることができた。  各方面別にまち調べを行う中で、北、東、南方面には住宅地が多いが、西方面には、新治市民の森や念珠坂公園、梅田川など自然が多いことを知ることでできた。また、里山交流センターの館長から「一本橋メダカひろば」のホタルについて、三保に生息する生き物について話を聞くことで三保の自然の魅力に気付くことができ  まち調べからわかったことをグループで方面別に三保のまちマップを作った。グループごとにまちマップを紹介し合うことを通して、今まで気づかなかった三保の自然の魅力に興味をもつことができた。			梅田川の魅力を探ろう 梅田川の生き物調査などの体験活動や梅田川に関わる方々(梅田川愛護会)に取材することで外来生物や絶滅危惧種について知ったり、自然を守ろうとする人々の願いを知ったりすることができた。 関連教科:総合学習20時間 理科8時間 梅田川について知りたいこと調べたいことを話し合い、課題を設定した。それぞれの課題について調べ方や情報収集の仕方を考え学習計画を立てた。調べていく中で、梅田川の自然は、人の力によって守られていることを知り梅田川愛護会などの存在に気付くことができた。  環境科学研究所・横浜市道路交局河川企画課の協力のもと梅田川の生き物調査を行った。実際に川に入り生き物を採取し、種類ごとに水槽に分類し説明を受けた。初めて見る生き物や梅田川の絶滅危惧種ホトケドジョウについて知り、外来生物や絶滅危惧種について興味をもち、新たに絶滅危惧種を救いたいという思いを  生き物調査から新たな課題を設定し、調べ学習を行った。学校図書館から資料を探したり、インターネットから情報を収集したりした。わからないことは、実際に梅田川愛護会の方から話を聞くことで絶滅危惧種を守るために自分たちにできることはないか考えることができた。			梅田川の魅力を伝えよう 梅田川の生き物調査などの体験活動や梅田川愛護会の方々から話を聞くことで、絶滅危惧種を守りたいという思いやもっと梅田川魅力を全校のみんなにも知らせたいという思いをもつことができた。 関連教科:総合学習27時間 国語5時間 梅田川にたくさんの生き物が生息していることを全校のみんなにも知ってもらうために梅田川にある「一本橋メダカひろば」のジオラマを作り紹介したいという思いから、ジオラマ作りやポスター作りに取り組むことができた。  ジオラマ制作や今まで調べたことを授業参観で報告発表会を行い、自分たちの思いや考えを保護者の方々に発表することができた。  国語の「わたしたちの学校じまん」の単元を「三保のまちじまん」とし、全校に向けて発表の準備を行った。今までの学習から分かったことや梅田川の魅力、梅田川の自然を守るために自分たちにできることを校内放送を通して発表することができた。また、完成したジオラマとポスターを展示し全校に紹介することができた。 							
	3.得られた成果 今まで知っているようで知らなかった梅田川の生き物について調べることで、生き物の個々の生態について詳しく知ることができた。また、実際に川で生き物を捕まえ、実物を見ながらの観察をすることでより生き物について興味関心を深めることができた。 調べていくうちに、アメリカザリガニやミドリガメなどの外来生物は人が逃がしてしまうことで増えていき、そのために梅田川の本来の在来種が減少している事実を知ることによって川で外来生物を捕まえたなら川に逃がしてはいけないことに改めて気づき、実行している児童も見られた。これからも自然を守るために今の自分たちにできることを考え、他者に伝える活動に取り組むことで日々の自分たちの行動に責任をもつことに大切さを感じることもできた。					4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果 三保のまちの「一本橋メダカひろば」や梅田川は、児童にとって身近な場所である。休みの日に生き物を実際にとりにいった児童も多く見られた。身近な河川を題材にし調べることで、ただ遊ぶためだけの場所ではなく三保のまちの大切な自然として守る必要があることに気付くことができた。今まで、地域の取り組みとして休日に行う遊水池調査や水辺の楽校などの催し物に対して関心が薄かったが、梅田川の生き物調査をしていく中で興味関心が高まり、進んで参加しようとする児童も増えた。また、梅田川愛護会や川を守ろうとしている人たちの思いを知り、自分たちの今までの自然に対する考え方も変わってきた。このことから、身近な河川を題材にすることで児童の見方、考え方に変容が見られ、地域の取り組みにも関心が向けられるようになった。								

助成番号	助成事業名	学校名
2 2023-7211-018	梅田川の魅力を探ろう ～生き物・人・つながり～	横浜市立三保小学校
助成事業の主な実施箇所	主な実施箇所 梅田川・一本橋メダカひろば	
	※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。 (縮尺は 1/50 万～1/100 万程度) ※活動場所が「子どもの水辺」、「水辺の楽校」に指定されている場合には、指定場所と名称を記載してください。 	